

2022年度 認定こども園進徳幼稚園自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標（「生きる力」の育成）を掲げている。

1. げんきであかるい子（体）
2. こころのやさしい子（徳）
3. よく考え、工夫し、表現する子(知)

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

本年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に努めつつ、子ども一人ひとりの育ちを支えるためにできることは何かを常に模索し、保育者間で知恵を出し合い検討を重ね、刻々と変化する状況に対応しながら、子どもを主体とした保育を行うことを目指した。更に、このような状況下でも、可能な限り子ども主体の行事開催に努めたことは評価できる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
「子どもを主体とした保育」の計画・実践に向け、保育者間の連携を図り、引き続き記録を継続し、その記録を有効に活用した保育計画の立案を心がけ、保育の向上を目指す。	学年会議での意見交換や、日々の保育の中での情報交換を積極的に行うことで、子どもを取り巻く問題や課題を共有出来ていた。今後は、その内容を次に繋げられるような記録の残し方を工夫する必要がある。	B
本園の特色ある、工夫された教育・保育内容について、ブログや学年だより（すくすく）、園だより（さくら草）などを通して発信することで、子どもの自主性・主体性を重視した教育・保育内容が保護者に分かりやすく伝わるような表現・工夫を心掛ける。	ブログやお便りの配信を重ねる中で、子どもたちの活動の様子が伝わりやすい写真や言葉を盛り込む表現が見られた。また、月に一度のれんらくノートや日々のれんらくちょうを通して、子どもの自主性や主体的な活動の様子を保護者に伝えることが出来た。	A
感染症（主に新型コロナウイルス感染症）対策について、全般的に見直しをすすめ、職員の知識を高めると共に、確かな最新情報を発信することで保護者の理解、協力を得る。	社会の動向について意識を高く持ち、必要な対策を心がけてきた。特に新型コロナウイルス感染症については対策の改善が必要となり、そのことにより情報の更新し、保護者にはイラストを利用した資料を配信するなどの工夫をした。	A

4. 自己評価結果と分析

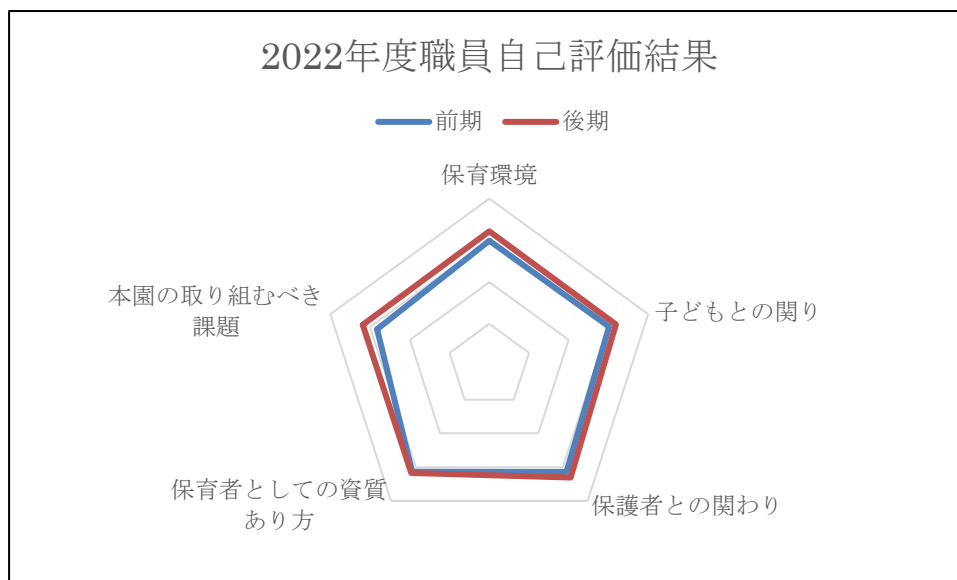
・評価方法

各職員が各自自己評価を行い、全体の集計を出す（評価項目は最終ページに添付あり）

・分析

前期は「本園の取り組むべき課題」の項目の評価がやや低かったが、一次評価基準日に主幹教諭との面談を通して自己の振り返りをしたことで、後期評価に向けての課題が見つかった。明確な課題を持ったことで後期には全項目の評価が上がったと思われる。このことは、保育者一人ひとりが課題を意識し、改善に向けて努力した結果と評価できる。

2022年度職員自己評価結果



5. 今後取り組むべき課題

日々の保育の記録の取り方、活かし方を工夫し活用につなげる。	引き続き日々の保育の振り返りを継続していく中で、出てきた課題などを、学年や園全体ですぐに共有できる記録の取り方、活かし方、更にはそれを次年度に活かしていくことを目指す。
保護者と園が連携し、子どもを主体とした行事を実施する。	これまでの行事を見直し、子どもが主体的に取り組める行事の在り方を保育者間で意見を出し合いながら作り上げていく。また、園が目指す行事の目的を保護者にもわかりやすく伝えていく。
今年度の園の研究課題である食育や食具の使い方について研究を深め保護者と共有する。	子どもたちの食への関心を高めると共に、年齢に応じた食具の使い方の指導を通して、食育教育の在り方を研究していく。また、その過程で得た知識を保護者にも伝え、園と保護者で連携して育てていく。

6. 子ども園評価評議員会 (R5.3.21) による意見

- ・保育教諭の自己評価は教員の資質向上のため、また保育現場の活性化のために必要な取り組みだと思う。自分自身の勤務内容を客観的に振り返り、また上司から具体的な助言や励ましをもらえることは保育教諭にとって大きな成長につながると思う。この取り組みは今後も継続してほしい。
- ・保護者からの園に対するアンケート結果を公表し、保護者からの苦情・疑問点に対する園側の回答を全保護者に配信及び配布することは、課題や問題点が明確になる共に改善策を早急に打ち出すことで保護者からの信頼につながると思う。
- ・アンケートの設問に対して「普通」という選択肢があると、回答者が深く考えず安易に「普通」を選択してしまう可能性がある。回答者が課題に真摯に向き合い、振り返るために「普通」を選択肢から外すことも検討してほしい。
- ・県外保育士による乳幼児虐待問題について、虐待は段階的に行われる。最初から過激な虐待は行われぬ。早い時期に気づき防止対策をとるなど早期発見・早期対応が必要である。
- ・通園バス園児置き去り事故に関して、驚いたのは担任及び学年主任が欠席連絡のないにも関わらずその子が園に来ていないことに違和感を持たなかったこと。一般の担任だったらすぐに気づき家庭に連絡をすると思う。

7. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。(R5.4.8)

2022年度 自己評価チェックリスト

		十分 できて いる	できて いる	ふつう	努力が 必要
1 保育環境					
1	楽しい雰囲気の中で一人ひとりが安心して遊びこめる環境づくりを心がけている。				
2	季節の変化に応じた環境構成を行っている。				
3	子どもの動線、視線に配慮して遊具や用具を配置している。				
4	発達に合ったおもちゃや、遊具を用意している。				
5	保育室の清潔や換気、採光、温度、湿度などに気を付けている。				
6	活動に必要な遊具や用具、素材などを質、数量などを配慮して用意している。				
7	翌日の保育がスムーズに始められるよう、前日までに全ての設定を整えている。				
8	不審者の侵入や登降園時の安全に十分配慮している。				
チェック 合計数					

2 子どもとの関わり

9	一人ひとりの発達を理解してその子の持つ個性や可能性を大切に育てるように心がけている。				
10	一人ひとりのありのままの姿を受け入れるようにしている。				
11	朝の登園時は特に視診を大切に子ども体調が悪くないかを確認している。				
12	子どもが自ら考えたり、工夫したり出来るような見守り方をしている。				
13	年齢に応じた分かりやすく、聞き取りやすい語りかけをしている。				
14	適切な声の大きさと接している。				
15	子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている。				
16	子ども同士のトラブルに対し適切な対応をすると共に、友達の良さや大切さに気付くような対応をしている。				
17	子どものことについて、常に保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。				
18	他のクラスや異年齢の子どもたちと進んで関わりを持つことを大切にしている。				
チェック 合計数					

3 保護者との関わり

19	全ての保護者に対して、親しみを込めたあいさつや会話をしよう心がけている。				
20	正しい日本語、丁寧な言葉や敬語を用いている。				
21	保護者が要望や相談などを話しやすいように誠実に対応している。				
22	保護者からの意見やクレームには安易に対応せず、園長や主任に報告、相談して対処方法を考えている。				
23	体調不良やケガなどの緊急連絡は相手方の状況に配慮した上で、迅速に、かつ分かりやすく対応しよう心がけている。				
24	送迎時に直接話をしたり、電話や連絡帳などで、日常の子どもの様子を伝達することを大切にしている。				
25	必要ならば個人面談の機会を設け、子どもの姿や育ちの過程を伝え合い、保育への理解を得るよう努めている。				
チェック 合計数					

4 保育者としての資質、在り方

26	子どものささやかな成長が理解出来てそれを喜ぶことが出来る。				
27	子どもと一緒に日々の生活を創りだすことを楽しんでいる。				
28	子どもや保護者との対応には公平さを欠かないようにしている。				
29	自分の保育の評価・反省を怠らず、次の保育と計画に活かせるように努力している。				
30	保育雑誌や専門書などを読んだりして、保育の情報や知識を集めている。				
31	園や子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある。				
32	園長や主任、同僚を尊重すると共に、職員全員でひとつのチームであることを意識している。				
33	子どものこと、クラスのことなどで必要なことは園長、主任に連絡・報告・相談している。				
34	職務上知り得た個人情報などの秘密を守っている。				
35	締切のある仕事や提出物は締め切り日をきちんと守っている。				
36	担当する仕事の計画・実行・反省を最後まで責任をもって行っている。				
37	園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいように片付けている。				
38	自らの健康や身だしなみ(服装・髪形)に気を配り、清潔感があるように心がけている。				
39	研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している。				
40	研修などで得た知識を日々の保育に活かしたり、園全体の向上に役立てられるよう伝達している。				
チェック 合計数					

5 本園の取り組むべき課題（2022年度課題）

41	【記録の継続と記録を活かした保育計画の立案】引き続き子どもを主体とした保育の計画・実践に向け、保育者間の連携を図り、これまでの記録を有効に活用して保育の向上を目指す。				
42	【本園の特色ある、工夫された教育・保育内容についてのわかりやすい伝え方の工夫】ブログや学年だより（すくすく）、園だより（さくら草）などを通じて、子どもの自主性・主体性を重視した教育・保育内容が保護者にわかりやすく伝わるような表現・工夫を心掛ける。				
43	【感染症対策（新型コロナウイルス対策）への保護者理解と協力の要請】感染対策について、全般的に見直しをすすめ、職員の知識を高めると共に、確かな最新情報を発信することで保護者の理解、協力を得る。				
44	【保育教諭としての資質向上に努める（個人目標と具体的計画）】自らの保育を振り返り、適切な個人目標を立て具体的計画のもと、よりよい保育の達成に向けての取り組みが出来ている。				
チェック 合計数					